



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

福島復興支援に ひまわり畑で種の収穫

“天空のひまわり畑”で復興の力に



美作市にある広大なひまわり畑で 9 月 23 日、見頃が終わって枯れた花から種を取る作業が行われました。美作市竹田地区の高台にある広さ 3 ヘクタールの畑で行われた種の収穫には、地元の農家や県内外からの親子連れなど合わせておよそ 20 人が参加しました。この場所は、「天空のひまわり畑」と呼ばれ、夏には、およそ 30 万本のひまわりが観光客を楽しませます。見頃が終わって枯れた花には黒い種がびっしりとついていて、参加者は、手に持った鎌で花の部分を丁寧に刈り取っていききました。そして、1 か所に集めた花を茎でたたくなどして、種を落としていました。

ひまわりの種の収穫作業は、9 月 27 日ごろまで行われます。およそ 200 キロが収穫される見込みで、そのうちの半分は、福島県の NPO 法人に寄付され、復興支援に役立ててもらおうということです。畑を管理する農家は、残りの半分の種から油をとって販売し、来年の活動資金にあてるとのことです。

収穫に参加した小学 3 年生の女の子は「種を取るの、スイカ割りみたいで楽しかった」と話していました。兵庫県から親子 4 人で参加した男性は「楽しみながら福島の力になれてうれしい。来年も家族で参加したい」と話していました。



地元の農家や観光客が種の収穫を体験



収穫量の半分が福島の復興支援に充てられる

岡山県美作市にある“天空のひまわり畑”は約 30 万本のひまわりを咲き誇り、観光地の一つとなっています。そのひまわり畑で種の収穫を行い、それが福島県の被災地に送られ、再び花を咲かせることで復興支援に役立っているそうです。実はひまわりの種で復興支援を行う取り組みは“天空のひまわり畑”だけではありません。東日本大震災が起こってから「希望のタネをまこう！」プロジェクトが発足し、今年で 13 年目を迎えています。また、NTT 東日本グループは、福島の復興支援および環境貢献活動の一環として、「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加し、年間で 150kg を超えるひまわりの種を福島に寄贈しました。東日本大震災が発生して以降、様々な形復興支援がなされていますが、このニュースのようにまだ知られていない支援もあります。身近なことで出来る支援を知り、少しでも復興につなげたいですね。

(生井)